

三菱の歴史・・・日本初の量産乗用車から、電動四駆へ

横＝年代／縦＝4つの流れ。技術のレーンが強い時期と、危機のレーンが動く時期が重なっているのが見どころです。

● 会社のできごと ● 危機と転換 ● 世界へ ● 技術

	～1920s 創業期	1930s 戦前	1940s 戦中戦後	1950s 再建	1960s 大衆化	1970s 規制	1980s 世界へ	1990s 転機	2000s 再編	2010s 立て直し	2020s 電動化
● 会社のできごと 組織・体制	1917 三菱造船が三菱A型を製作 日本初の量産乗用車とされる		1946 三輪トラックやスクーター 戦後の再出発		1960 三菱500 乗用車に戻る	1970 三菱自動車工業として独立 重工業から分離			2005 グループの支援で再建	2016 日産の傘下に	2020s 東南アジアが主力市場 🕒
● 危機と転換 信頼を失った時期			1940s 戦後の再編			1973 オイルショック		1990s 販売の低迷	2000 リコール隠しが発覚 2004年にも再発し販売が急落	2016 燃費試験の不正を公表	2020s 車種の絞り込みが続く 🕒
● 世界へ ラリーと東南アジア						1974 アフリカのラリーで優勝	1985 パリ・ダカール・ラリー初優勝 砂漠での強さ	1996-99 世界ラリー選手権で4連覇 個人王者	2000s 東南アジアで生産を拡大	2010s タイ・インドネシアが柱に	2020s 東南アジア中心 🕒
● 技術 作ったもの	1917 三菱A型 日本の量産乗用車の原点				1962 ミニカ 軽の柱	1973 ランサー	1982 パジェロ 四駆の代名詞に	1992 ランサーエボリューション ラリーの主役	2009 i-MiEV 量産の電気自動車	2013 アウトランダーPHEV 充電もできるハイブリッドSUV	2022 eKクロスEV 軽の電気自動車🕒

🏆 いちばん誇れる場面

砂漠のラリーでの連続優勝と、世界ラリー選手権の4連覇。厳しい条件で結果を出し続けたことが、四駆の会社としての評価を作りました。

💡 ここだけ押さえる

2009年の量産EVと2013年のプラグインハイブリッドSUVは、どちらも他社より早い挑戦でした。ラリーの会社という印象の裏で、電動化では先頭を走っていた時期があります。

⚠️ 影の部分も見ろ

2000年と2004年のリコール隠し、2016年の燃費試験の不正。二度の大きな不正は、この会社を語るうえで避けて通れません。事実として知ったうえで判断してください。